

2011/04/05

サーチナ、中国人ユーザー5,515名とともに合わせて義援金 630 万円を寄付

中国人 30 代以上、上海で積極的に拠出 より広範な層で支援機運高まり

株式会社サーチナ（本社：東京都中央区）は、中国人消費者に呼びかけて行なった「東北地方太平洋沖地震」募金活動と合わせて、総額 630 万 9575 円（※1）を被災者の救済や被災地の復興に役立てていただくための義援金として寄付いたしました。

サーチナは、代表取締役社長・端木正和が元は福建省出身の中国人留学生で、その後日本で就職、独立後「相互理解」を理念として起業・設立した企業であり、今までに台湾大地震（1999 年 9 月 21 日）、四川大地震（2008 年 5 月 12 日）などの災害時には日本で義援金を募集するなど、それぞれ現地の被災者救済や被災地復興に協力してまいりました。

今回、日本で大規模な震災が発生したことに伴い、中国から日本へという、相互幫助の精神にのっとり、中国現地法人である新秦商務諮詢（上海）有限公司（上海サーチナ＝サーチナ総合研究所）が保有・管理している 47 万人あまり（※2）の中国消費者モニターにネット上で募金を呼びかけたところ、震災後 1 週間あまりで合計 5,515 名の中国人ユーザーに、募金に応じていただきました。これとサーチナから拠出した義援金を合わせて日本赤十字社の同震災募金窓口へ寄付いたしました。

◆「日本好き」の一部だけでなく、より広範な層で「日本支援」の機運高まる

今回ご協力いただいた 5,515 名の中国人ユーザーの属性分布と、当社中国消費者モニター全体の属性分布を比較してみると、今回の募金に対してより積極的だったのは、男性よりは女性、居住地域では上海、年齢では 30 代後半以降、個人月収では 2,000-6,000 元という中間層に集中している傾向が読み取れました。

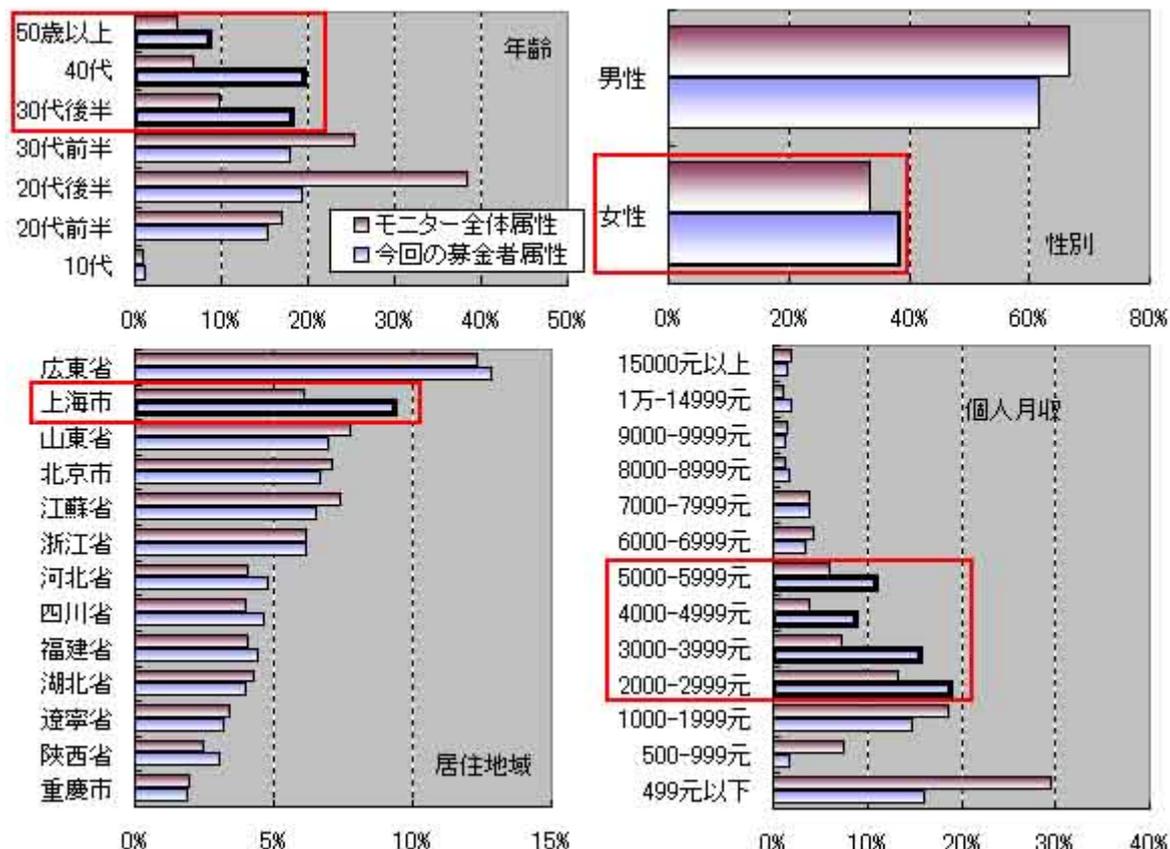
	今回の募金に積極的だったと思われる層	一般的な対日感情の傾向
性別	女性	対日好感度が高いのは、どちらかと言えば女性
居住地域	上海	上海や、設問によって広州などの対日好感度が高い
年齢	30代後半以降	設問によってばらつきがあるが、30代が中心。若い世代になればなるほど悪化、年齢が高まるほど悪化するのが一般的
個人月収	中間の2000-6000元の層	1万元以上など高収入層で対日好感度が高い

※「一般的な対日感情の傾向」は当社が行っている各種調査で一般的に表れる傾向を記載。

当社が従来から行なっている中国消費者の対日感情に関する調査結果では、通常、高所得者層ほど対日感情が良くなる傾向にあるのに対して、今回は、個人月収 2,000-6,000 元という中間所得層で募金に積極的であったことから、未曾有の日本の震災に対して、少数派の「日本好き」が集中している高所得層のみならず、より広範な中間所得者層においても、「日本支援」の機運が高まっていることが伺えます。

2011/04/05

今回の募金者の属性と当社モニターDB全体のモニター属性の差異



当社モニター全体属性に比べ、今回の募金者属性が突出して多くなっていれば、その属性は相対的に積極的に基金に応じたものと判断した。

©サーチナ総合研究所

※1 金額は一部人民元を含めて合算したもの。人民元は1元12.5円で計算した。

※2 2011年3月末現在、最新のモニター数はサーチナ総合研究所 <http://jp.searchina.com.cn> で毎日更新中。

【関連プレスリリース】

- ・サーチナ、銀座4丁目交差点に震災支援の中国語映像放映 (2011/03/29)

http://searchina.ne.jp/pr/disp_press.cgi?y=2011&d=0329&f=net_0329_001.shtml

- ・サーチナ、中国消費者に東北地方太平洋沖地震の募金呼びかけ (2011/03/17)

http://searchina.ne.jp/pr/disp_press.cgi?y=2011&d=0317&f=net_0317_001.shtml

■本リリースに関するお問い合わせ

株式会社サーチナ

〒103-0027 東京都中央区日本橋1-3-11 浅野ビルディング7階

社長室 海蔵

お問い合わせフォーム <https://secure.searchina.ne.jp/info/query.cgi>

※お問い合わせ内容のなかの「プレスリリースに関する質問」を選択してお問い合わせいただけますようお願いいたします。